

28章

テーマ: イスラエルの、前もって書かれた歴史。

この章は、イスラエルの将来に関する部分の続きです。モーセは契約の条件付きの部分を言い渡します。イスラエルの民は神さまに従うときにのみ、祝福を受けるのです。彼らの不従順は、ここに書かれているようにのろいをもたらします。

そしてこの箇所には、彼らがまだ足も踏み入っていないこの地での、前もって書かれた歴史が書かれています。もっとも顕著な聖書の箇所のひとつです。彼らの立ち退きの預言が三つあります。そのすべてが成就しました。彼らの回復の預言も三つあります。そのうちのふたつが成就しました。イスラエルのこの地への三度目の帰還は、まだこれからです。

(申命記28:1-2)「もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を守り行なうなら、あなたの神、【主】は、地のすべての国々の上あなたを高くあげられよう。あなたがあなたの神、【主】の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される。」

「もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声によく聞き従い、」と書かれています。とても大きな「もし」に注目してください。これは契約の条件付きの部分です。彼らは、神さまに従うときにのみ、祝福されるのです。

(申命記28:3-6)「あなたは、町にあっても祝福され、野にあっても祝福される。あなたの身から生まれる者も、地の産物も、家畜の産むもの、群れのうちの子牛も、群れのうちの雌羊も祝福される。あなたのかごも、こね鉢も祝福される。あなたは、入るときも祝福され、出て行くときにも祝福される。」

これを読んでいくと、12ののろいが言い渡されているのに対し、祝福は6つしかないという事実、おそらく衝撃を受けるでしょう。もしなぜこうなのかを知りたいと思われるなら、残りの祝福はどこにあるかをお教えしましょう。

主は山の上に立たれ、山上の垂訓と呼ばれている説教をされました。主はどのように説教を始められたでしょう？

(マタイ5:3)「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」

そしてほかの至福(訳注:「～は幸いです」で始まる文章)が続きます。このようにメッセージを始めることで、教育を受けたイスラエル人はそれに耳を傾けました。その人は、長く多様な歴史のあとでさえも、やって来るはずの祝福を聞いていたのです。(訳注:つまり、モーセの示した祝福とイエスさまが山上の垂訓で語られた祝福は、同一線上にあり、教育を受けたイスラエル人には、その関連が理解できた、ということをお願いしたいのだと思います。)この当時、彼らはすでに2回の捕囚を経験し、彼らを世界中に散り散りにさせる、もうひとつの捕囚にこれから行かなければなりませんでした。

彼らが従うなら、豊かな祝福が約束されているのです。

(申命記28:13-14)「私が、きょう、あなたに命じるあなたの神、【主】の命令にあなたが聞き従い、守り行なうなら、【主】はあなたをかしらとならせ、尾とはならせない。ただ上におらせ、下へは下されない。あなたは、私が、きょう、あなたがたに命じるこのすべてのことばを離れて右や左にそれ、ほかの神々に従い、それに仕えてはならない。」

さて、モーセはのろいに戻り、祝福かのろいかは、この「もし」にかかっていることを示します。

(申命記28:15)「もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声に聞き従わず、私が、きょう、命じる主のすべての命令とおきてとを守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたはのろわれる。」

再度、これは条件付きであることを見ます。

さて次は、聖書のもっとも顕著な箇所のひとつです。これは、前もって書かれた、その地でのイスラエルの歴史です。聖書はイスラエルがこの地を三度追われ、三度この地に戻されることを預言しています。三度の立ち退きがあり、イスラエルは三度回復されなければなりません。

神さまは、最初の立ち退きと回復をアブラハムに預言されました。

(創世記15:13、16)「…『あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。…そして、四代目の者たちが、ここに帰って来る。…』」

彼らはエジプトに430年行きました。そして神さまは彼らをエジプトから連れ出されました。今私たちが申命記で追っているのは、そのできごとです。彼らはヨルダン川の東岸におり、神さまが彼らをこの地に回復するのはこれが最初です。ヨシュア記で彼らがこの地に入っていくのを見、そして士師記で彼らがこの地に落ち着くを見ます。それが完全な文字通りの預言の成就です。

今、まだ彼らがこの地に入っさいないうちに、彼らが二度目にこの地から追い出されることがここで言及されています。これは顕著な章です。

(申命記28:32-34)「あなたの息子と娘があなたの見ているうちに他国の人に渡され、あなたの目は絶えず彼らを慕って衰えるが、あなたはどうすることもできない。地の産物およびあなたの勤労の実はみな、あなたの知らない民が食べるであろう。あなたはいつまでも、しいたげられ、踏みにじられるだけである。あなたは、目に見ることで気を狂わされる。」

この節は、ユダの最後の王、ゼデキヤに実際に成就しました。彼の息子たちは彼の目の前で殺されました。そして彼の目はえぐりだされました。盲目で無力になり、彼はバビロン捕囚に連れて行かれたのでした。

(申命記28:35-37)「【主】は、あなたのひざとももとを悪性の不治の腫物で打たれる。足の裏から頭の頂まで。【主】は、あなたと、あなたが自分の上に立てた王とを、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった国に行かせよう。あなたは、そこで木や石のほかの神々に仕えよう。【主】があなたを追い入れるすべての国々の民の中で、あなたは恐怖となり、物笑いの種となり、なぶりものとなる。」

これは、今は歴史となった、バビロン捕囚のことでした。私たちには記録があります。あとでもっとそのことに関する預言を読み、そして実際に列王記と歴代誌で実現することを聖書から勉強します。

なぜこれらすべてのことが、彼らの上に起こったのでしょうか？それは彼らの不従順のためです。神さまは彼らに「もし」を与えられました。神さまは言われました。「もしあなたがたが従うなら、あなたがたは祝福を受ける。もしあなたがたが従わないなら、あなたがたはこの地から取り去られる。」

イスラエルは、バビロン捕囚から回復されました。彼らがこの地に帰ったことは、エズラ記とネヘミヤ書に記録されています。預言者ハガイ、ザカリヤ、そしてマラキが彼らがこの地に帰ることを語っています。そして、これは彼らがこの地に帰ることに関する第二の預言です。この預言は文字通り成就しました。

第三のイスラエルの離散は、ローマに征服された結果でした。そのことが預言的に説明されています。

(申命記28:48)「あなたは、飢えて渴き、裸となって、あらゆるものに欠乏して、【主】があなたに差し向ける敵に仕えることになる。主は、あなたの首に鉄のくびきを置き、ついには、あなたを根絶やしにされる。」この私の書齋に、フラヴィウス・ヨセフスの歴史が2巻あります。その中で、ヨセフスはテスのもとでローマ人が攻めて来たことについて書いています。鉄の王国として知られるローマが、予告を成就しました。「主は、あなたの首に鉄のくびきを置き、」と書かれているとおりです。

(申命記28:49)「【主】は、遠く地の果てから、鷲が飛びかかるように、一つの国民にあなたを襲わせる。その話すことばがあなたにはわからない国民である。」

遠く西の方からやって来たローマは、ヘブル語とは全く違う言語を話しました。英語はラテン語とヨーロッパ系の言語を基礎としていますが、ヘブル語は、アジア、アフリカと東洋の言語に関連しています。全く違うのです。神さまは、征服者たちは「その話すことばがあなたにはわからない」人々であると言われました。

興味深いのは、ローマは鷲の紋章のついた旗印を掲げていたことです。教育を受けた多くのイスラエル人たちは、城壁の銃眼の向こうに鷲のついたテトスの旗印を見たときに、「あっ！これのことだ！」と言ったのではないかと私は考えています。

(申命記28:50-53)「その国民は横柄で、老人を顧みず、幼い者をあわれまず、あなたの家畜の産むものや、地の産物を食い尽くし、ついには、あなたを根絶やしにする。彼らは、穀物も、新しいぶどう酒も、油も、群れのうちの子牛も、群れのうちの雌羊も、あなたには少しも残さず、ついには、あなたを滅ぼしてしまう。その国民は、あなたの国中のすべての町囲みの中にあなたを包囲し、ついには、あなたが頼みとする高く堅固な城壁を打ち倒す。彼らが、あなたの神、【主】の与えられた国中のすべての町囲みの中にあなたを包囲するとき、あなたは、包囲と、敵がもたらす窮乏とのために、あなたの身から生まれた者、あなたの神、【主】が与えてくださった息子や娘の肉を食べるようになる。」

ヨセフスは彼の歴史の中で、どのように母親たちが自分の赤ん坊を手放すように強制されたか、そして赤ん坊の肉が食われたかを書いています。人々が死ぬと、その遺体は町の中で集められました。彼らはその遺体を城壁を越えて外に放り出さなければなりません。この預言は、文字通り成就したのです。

そして今、ユダヤ人たちは世界中に散らされています。

(申命記28:64)「【主】は、地の果てから果てまでのすべての国々の民の中に、あなたを散らす。あなたは、その所で、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった木や石のほかの神々に仕える。」

これは、まだこれから成就するのです。立ち退きの預言が三度あります。彼らに戻って来るといふ預言が三度あります。彼らは二度帰って来ました。まだ三度目に戻って来てはいないのです。

6つの預言があります。そのうちの5つが文字通り成就しました。6つめは、どうなると思いますか？私がどう思っているかをお話しましょう。私は6つめの預言も、文字通り成就すると思います。まだこれから将来に起こります。

(申命記28:65-67)「これら異邦の民の中であって、あなたは休息することもできず、足の裏を休めることもできない。【主】は、その所で、あなたの心をおののかせ、目を衰えさせ、精神を弱らせる。あなたのいのちは、危険にさらされ、あなたは夜も昼もおびえて、自分が生きることさえおぼつかなくなる。あなたは、朝には、『ああ夕方であればよいのに』と言い、夕方には、『ああ朝であればよいのに』と言う。あなたの心が恐れる恐れと、あなたの目が見る光景とのためである。」

何世紀にも渡って、ユダヤ人の迫害の中でこれらすべてがどれほど文字通りに成就したことでしょう！これはすべて彼らが不従順でい続けているからです。彼らには休息はなく、彼らの心はおののいています。彼らは朝には夕方であることを願い、夕方には朝であることを願います。何と悲しいことでしょう。皆さん。神さまはご自分のことばに忠実な方です。ここには、私たちが学ぶべきレッスンがあります。

このことは、私たちがこの地から立ち退かされた人々に福音を伝える動機とならなければなりません。主イエス・キリストの福音はユダヤ人と異邦人の両方のためであり、福音は、

(ローマ1:5)「…あらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらしため」

なのです。

29章

テーマ:パレスチナ契約(イントロダクション)

29章と30章は、パレスチナ契約と見なされています。ルイス・スペリー・シェーファー博士(Dr. Lewis Sperry Chafer: 1871年2月27日—1952年8月22日。アメリカの神学者。ダラス神学校の創設者であり、最初の校長を務めた。現代のキリスト教摂理主義の影響力の大きかった創設メンバーのひとり。ウィキペディアより)は、28章から30章を契約としています。スコフィールド・レファレンス・バイブル(The Scofield

Reference Bible)では、29章から30:10が契約で、29章をイントロダクションとしています。私のノートでは、29章から30章の最初の10節を契約としていますが、正式の契約は、30章の最初の10節です。この29章は前置きです。

神さまのご配慮の開始

今これは、モーセの第四の演説です。

(申命記29:1)「これは、モアブの地で、【主】がモーセに命じて、イスラエル人と結ばせた契約のことばである。ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である。」

ホレブでの契約は、十戒、または私たちがモーセの律法として知っているものです。神さまがここで彼らと結ぼうとしておられる契約は、土地に関係があり、パレスチナ契約と呼ばれています。神さまは彼らがこの地に入ろうとしている直前にこの契約を結ばれます。

(申命記29:2)「モーセは、イスラエルのすべてを呼び寄せて言った。あなたがたは、エジプトの地で、パロと、そのすべての家臣たちと、その全土とに対して、【主】があなたがたの目の前でなされた事を、ことごとく見た。」

神さまがエジプトで行われたことを目撃したときは、この人々は子供か、ティーンエイジャーでした。カデシュ・バルネアでの失敗以来、荒野をさまよったあと、この民族の一番年長者は、大体60歳くらいでした。古い世代からは、ヨシュアとカレブだけしか残っていませんでした。

(申命記29:3-4)「あなたが、自分の目で見ただけの大きな試み、それは大きなしるしと不思議であった。しかし、【主】は今日に至るまで、あなたがたに、悟る心と、見る目と、聞く耳を、下さらなかった。」

すべてのしるしを見たにも関わらず、彼らはまだ理解しませんでした。イザヤはそのことについて、多くのことを語っています。ローマ人への手紙の中で、パウロはイスラエルの盲目さを取り扱っています。

(ローマ11:8)「こう書かれているとおりです。『神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。』」

これは、神さまが彼らが理解することを許さなかったということ、つまり神さまが彼らのスイッチを切ってしまったということでしょうか？ そうではありません。彼らのスイッチがすでに切れているということなのです。神さまが私たちのスイッチを入れてくださらなければなりません！ 今日、そのことを私たちは認める必要があります。神さまが、人々の目と耳を開いてくださるまでは、彼らは福音を聞くことができないのです。誤解しないでください。彼らはことばを聞くことはできます。でも、彼らは理解力をもって福音を聞くことができないのです。

ある雑誌の記事を書いていた人が、私たちの番組を、宗教的で不正な金儲けをしながら5年間で聖書を通り抜ける番組だ、と分類していました。彼は、もし誰かが聖書を教えようとするなら、その人は宗教的で不正な金儲けをしている、と考えているようでした！ その人が、私たちが何をしようとしているかを理解するために、番組を聞いてくれたら良いのに、と思います。でも、彼が聞いてくれたとしても、私はまだがっかりするのです。なぜなら、聞いたとしても、彼は理解しないからです。彼には理解することはできないのです。彼はまだ、私たちがラジオで聖書を教えているのは、何か隠れた動機のためだと感じるでしょう。彼は聖書はただ宣伝として利用されているだけだと感じるのです。なぜでしょう？ なぜなら、神さまの御霊が、彼の目と心を開くために、神さまのみことばを通して働かなくてはならないからです。そうすれば、彼は神さまのみことばが多くの人たちの人生の中で効果的であることを理解することでしょう。

今神さまは、この人々をこのままにされる、と言われます。彼らは神さまに立ち返ろうという意図は全くありませんでした。彼らは生けるまことの神さまとのコミュニケーションを絶ったのです。ですから、神さまは彼らをその不信仰の状態のままにしておかれるのです。

(申命記29:5)「私は、四十年の間、あなたがたに荒野を行かせたが、あなたがたが身に着けている着物はすり切れず、その足のくつもすり切れなかった。」

40年の間、同じくつを履いていてそのくつが古くならない、というのを想像してみてください！今モーセは続けて彼らの荒野を通しての旅と、その旅がどれほど彼らの目をひらくべきだったかを説明します。

今日とても多くの人たちが、もし神さまが自分たちの目の前で奇蹟を起こして下さりさえすれば自分は神さまを信じる、と言います。このイスラエルの子らは40年間奇蹟を見ていたのに、それでも信じませんでした。証拠が欲しいから、人々は不信者でいるのではないのです。彼らが不信者なのは、聖書の中に何と書いてあるかのせいでも、彼らのまわりに見るもののせいでもありません。問題は内側にあるのです。彼らが不信者なのは、彼らが生来神さまの敵だからなのです。彼らの中には、神さまのこゝろを入れる場所がないのです。神さまは、何という人間の姿を示されるのでしょうか！神さまは、人間の心は途方もなく邪悪で、私たちのうちのだれも実際に人間の心がどれほどひどいかを理解することはできない、と言われます。

(ローマ8:7-8)「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。肉にある者は神を喜ばせることができません。」

パウロは、神さまは1,500年間律法のもとにイスラエルを試されたあとで、これを書いたのです。何という人間の姿でしょう！肉にある者は、神さまを喜ばせることができないのです。

モーセは彼らに、彼らの歴史の要約を与えて、彼らに対する神さまのすばらしい用意とご配慮とを彼らに思い起こさせています。これは、契約の前置きです。

パレスチナ契約は無条件ですが、彼らの土地の保有権は、彼らの従順いかんで決まるということを覚えておいてください。